

令和7年度第4回中央区協議会（南地域分科会）次第

日時：令和7年7月25日（金）午後1時30分から

会場：五島協働センター1階 ホール

1 開会

2 中央区長挨拶

3 議事

協議事項

（1）令和7年度地域力向上事業（助成事業）の提案について

☞資料1

（2）令和7年度市民活動表彰に係る団体推薦（南地域分）について ☞資料2

4 その他

（1）令和7年度地域力向上事業（協働センター等を核とした地域課題解決事業）
について ☞資料3、資料4、資料5

（2）代表会からの連絡事項について ☞連絡1

（3）次回の開催予定

第5回：令和7年8月22日（金）

第6回：令和7年9月16日（火）

（午後1時30分から 五島協働センター1階ホールにて）

5 閉会

第9号様式

区 協 議 会

区 分	<input type="checkbox"/> 諮問事項 <input checked="" type="checkbox"/> 協議事項 <input type="checkbox"/> 報告事項										
件 名	令和7年度中央区地域力向上事業（助成事業）の提案について										
事業の概要 (背景、経緯、 現状、課題等)	<p>地域力向上事業とは、市民協働の手法により住みよい地域社会を実現するため、市が実施又は支援する区の特徴を活かした事業や課題を解決する事業である。</p> <p>○市民提案による住みよい地域づくり助成事業 団体の提案に基づき、市が公益上の必要を認め、団体が主体的に取り組む事業に対し市から補助金を交付することで、効果が期待できる事業</p> <p>浜松市地域力向上事業実施要綱第8条第1項に基づき、助成事業の採択に当たっては、地域分科会に意見を求め、その意見を踏まえて実施予定助成事業を決定する。</p>										
対象の区協議会	中央区協議会（令和7年度第4回南地域分科会）										
内 容	<p>応募のあった事業提案の採択に当たって、地域分科会の意見を伺うもの。</p> <p><提案事業></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>事業名</th> <th>提案団体</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>地域交流 健康増進/防災意識向上イベント</td> <td>医療法人社団綾和会 浜松南病院</td> </tr> </tbody> </table>					No.	事業名	提案団体	1	地域交流 健康増進/防災意識向上イベント	医療法人社団綾和会 浜松南病院
No.	事業名	提案団体									
1	地域交流 健康増進/防災意識向上イベント	医療法人社団綾和会 浜松南病院									
備 考 (答申・協議結果を得たい 時期、今後の予定など)	地域分科会での意見を踏まえて実施予定助成事業を決定し、提案団体へ選考結果通知書を通ずる。										
担当課	南行政センター	担当者	森田	電話	425-1120						

令和7年度地域力向上事業（助成事業） 提案内容

1	(1) 提案事業名		(2) 提案回数	
	地域交流 健康増進/防災意識向上イベント		3回目	
			(補助率25%以内)	
	(3) 提案団体		(4) 実施時期	
	医療法人社団綾和会 浜松南病院		2025年8月1日(金)～2026年3月31日(月)	
	(5) 事業目的			
	<ul style="list-style-type: none"> ・ イベントを通じて地域住民の健康増進・防災意識向上 ・ 若年者を含めた地域コミュニティの活性 ・ 若年時から始める健康管理 			
	(6) 事業内容			
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域活性化、健康増進、防災意識向上を目的とするイベントの実施 ・ 若年者も含めた地域交流の場として、地域学生が参加するイベントを実施 ・ 世界糖尿病デー啓発のためのブルーライトアップの実施 			
	(7) 実施場所		(8) 参加予定人数	
	浜松南病院（中央区白羽町26番地）		団体スタッフ 60名 参加者 1,100名	
	(9) 概算事業費	(10) 補助対象経費	(11) 補助上限額	(12) 補助希望額
	987,120円	987,120円	246,000円	246,000円
	(13) 【審査会】点数の平均			
	地域資源の活用度	地域課題の明確性	事業の妥当性	公益性
4.3	4.2	4.2	4.0	3.8
合計	結果		審査の目安	
20.5	採択候補とする		合計点が平均15点以上、かつ 公益性の項目が平均3点以上	
(14) 【審査会】採択の条件				
(15) 【審査会】主な意見				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康・防災という身近な課題をテーマに、南地域にある病院として地域に伝えていきたいという趣旨は素晴らしい。 ・ 近隣の学校、医療機関、行政、地域等が一体となって実施することは評価できる。防災に重要な地域力を高めるイベントとなることを期待する。 ・ 地域交流、健康増進、防災意識の向上は地域にとって必要な要素であり、公共的要素も含まれ、実施する意義は高い。 ・ 津波避難ビル、避難経路をイベントを通じて周知を図ることは、いざという時のために意義ある事業であると考える。 ・ 今回新たに若年層を意識した企画の提案が含まれており期待している。若年者に対する健康・防災の意識付けは継続性を持って実施していく必要がある。 				

第1号様式（第6条関係）

事業提案書

令和7年5月30日

（あて先）浜松市長

所在地 浜松市中央区白羽町26番地

団体の名称 医療法人社団 緑柳会 浜松南病院

代表者役職・
氏名 院長 野崎 晃
(署名又は記名押印してください。)

連絡先 電話 053-443-2111（代表）

次のとおり、事業を提案します。

事業名	地域交流 健康増進/防災意識向上イベント
実施時期	2025年8月1日（金）～ 2025年3月31日（月）
実施場所	浜松南病院
概算事業費	987,120円（補助金 246,000円）
参加予定人数	団体スタッフ 60名、参加者 1100名
事業の内容 (事業の対象や手法などを具体的に記入)	<p>【対象】南地域住民</p> <p>【F時】</p> <p>① 2025年10月5日（日） 10:00～15:00 地域交流 健康増進/防災意識向上イベント</p> <p>② 2025年10月5日（日） 17:00～ 2025年10月6日（月） 8:00 世界糖尿病デー啓発のためのブルーライトアップ</p> <p>【内容】</p> <p>① 地域交流 健康増進/防災意識向上イベント</p> <p>> 健康/防災に対する啓発のため講演会実施</p> <p>◆ 浜松、南でもリハビリ体操 演者：当院 リハビリ科スタッフ</p> <p>◆ 健康に過ごすために 演者：浜松PET診断センター様</p> <p>> 各種機器を用いた健康指標の測定/健康意識向上</p> <p>◆ InBodyを用いた体成分分析</p> <p>◆ 骨密度測定器を用いた骨強さ測定</p> <p>◆ 手洗いチェッカーを用いた適切な手洗い方法確認</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ヘルスケアアプリ「はままつ健幸クラブ」紹介 浜松市ウエルネス推進事業本部協力 > 医療/福祉に対する関心を高める <ul style="list-style-type: none"> ◆ お薬分包体験 ◆ 高齢者疑似体験 ◆ 栄養相談 ◆ ボッチャ体験 ◆ 福祉車両・セニアカー展示/体験 (株)スズキ自販浜松協力 ◆ 健幸弁当販売 (浜松南病院×LENRI コラボ弁当) 愛管樹協力 > 防災意識向上、防災力強化 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 災害時に簡単にできるクッキング法 ◆ 防災食品・防災グッズ 紹介/展示 ミドリ安全浜松(株) ◆ 消防車両展示/けむり避難体験 南消防署白鷺出張所協力 ◆ 水消火器使用による消火訓練 ◆ 防災士/災害備蓄管理士によるトークショー&ミニライブ > 地域の学生と作るイベント <ul style="list-style-type: none"> ◆ イベント題字協力：浜松南高校書道部 ◆ 作品展示：浜松江之島高校美術部 ◆ スイーツ販売：東海調理製菓専門学校 ◆ 太鼓演奏：浜松修学舎高校郷土芸能部 ◆ 吹奏楽演奏：浜松南部中学校 ◆ バルーンアート：静岡文化芸術大学バルーンサークル <p>② ブルーライトアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> > 世界糖尿病デー（11月14日）を啓発するために病院正面のライトアップを実施し、糖尿病撲滅・予防の啓発
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ● イベントを通じて地域住民の健康増進/防災意識向上 ● 若年者を含めた地域コミュニティの活性化 ● 若年時から始める健康管理
地域資源の活用	<ul style="list-style-type: none"> ● 病院職員・病院所有機器による健康に対する啓発 ● 南地域の津波避難ビルに指定されている当院建物を使用

	<p>した防災意識強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域の民間企業/学生/消防署・行政 産学官協力による防災意識の向上
地域課題	<p>【地域課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 病気・災害等の有事に対する予防/対策が不十分 ◆ コミュニティの場が乏しい ◆ 若年時からの未病意識の低下 <p>【原因・背景】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 病気の予防に対する意識の低下 ◆ 防災意識の希薄 ◆ 情報提供の場が少ない
事業の妥当性	<p>健康/防災に対して啓発活動を行うことで、健康/防災に関する興味・関心が増加する</p> <p>→健康増進への意識の醸成、防災意識の向上の契機となる</p>
公益性	<p>健康寿命の増加、防災意識向上による災害時被害軽減、地域コミュニティ活性化</p>
財政支援の妥当性	<p>当院（医療）の専門性を活かして地域を活性化するモデルケースとして展開し、行政施策を超えた地域コミュニティの自主性を促進する</p>

収支予算書

1 収入の部		単位：円
区分	予算額	経費内訳(単価・数量)
補助金	246,000	地域力向上事業(市民提案による住みよい地域づくり事業費補助金)
計	987,120	

2 支出の部		単位：円
区分	予算額	経費内訳(単価・数量)
報償費	50,000	イベント出演料(防災+災害備蓄管理セミナー&ミニライブ)
需用費	348,620	参加賞：大人用ペットボトル飲料 (85円×312本=26,520円：13ケース分) 参加賞：子供用お菓子袋詰め (162円×300個=48,600円) 資料配布用袋100枚セット (1,600円×9=14,400円) 除菌シート (1,600円×6=9,600円) アルコール消毒12本セット (7,000円×3=21,000円) 養生テープ (500円×50=25,000円) ゴミ袋：含処分費 (500円×60=30,000円) A3ラミネートシート100枚 (2,000円×5=10,000円) A1ラミネートシート100枚 (1,100円×5=5,500円) 講演使用教材：パンフレット160部12,000円 /ゴムバンド2箱 (2,250円×2=4,500円) スタンプカード (500円×10=5,000円) 検査用紙1箱 (16,500円)

		薬分包紙1ケース (33,000 円) イベント題字27,000 円 企画消耗品：個別ブース (災害クッキング：10,000 円) (手洗いチェック：26,000 円) (縁日：9,000 円) (バルーンアート：13,000 円) (お薬分包：2,000 円)
印刷製本費	96,000	イベントパンフレット4,000部 (65,000 円) 検査用紙印刷費 (31,000 円)
使用料及び賃借料	492,500	ブルーライトアップ：150,000 円 テント (13,000 円×8=104,000 円) パイロン (450 円×20=9,000 円) 屋外放送用機材：80,000 円 骨密度測定器：73,000 円 ステージ式：35,000 円 スロープ (台含む)：25,000 円 縁日用品：8,500 円 IHヒーター：8,000 円
計	987,120	

区 協 議 会

区 分	<input type="checkbox"/> 諮問事項 <input checked="" type="checkbox"/> 協議事項 <input type="checkbox"/> 報告事項				
件 名	令和7年度市民活動表彰に係る団体推薦（南地域分）について				
事業の概要 (背景、経緯、 現状、課題等)	<p>【市民活動表彰の趣旨】 優れた市民活動を行う団体を表彰することで、団体のモチベーションを高めるとともに、多くの市民に市民協働をPRし、市民主体のまちづくりを継続に推進するもの。</p> <p>【表彰の流れ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 推薦団体の選考にあたっては、各区の行政推進会議で審査し、各区協議会（地域分科会）に意見を求め、その意見を踏まえ区長が決定する。 ・ 推薦団体は各地域（旧7区単位）原則1団体とする。 ・ 市長は各区で選考された団体のうちから、審査を行い、市長賞受賞団体を選定し、その他の団体を区長賞として決定する。 				
対象の区協議会	中央区協議会（南地域分科会）				
内 容	<p>南地域の推薦団体について、区協議会（南地域分科会）委員の意見を求めるもの。</p> <p>【推薦団体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 五島地区社会福祉協議会 <p>※参考資料・・・別紙</p>				
備 考 (答申・協議結果を得たい時期、今後の予定など)	令和7年9月に市長賞受賞団体が決定予定				
担当課	南行政センター	担当者	原川知己	電話	425-1120

浜松市市民活動表彰 団体推薦書 (中央区南地域)

(ふりがな) 団体名	ごとう ちくしゃがいふくしきょうぎかい 五島地区社会福祉協議会	(ふりがな) 代表者氏名	こばやし むつお 小林 睦夫
団体設立年月	平成 17 年 1 月	団体員数	10 人 (役員数)
団体活動目的	五島地区の住民が明るく健康で心豊かな日々を送れるように互いに支えあい助け合っている地域づくりを目指す		
これまでの 主な活動実績	広報活動 歳末福祉事業 児童育成事業 地域交流事業 防災・防犯事業 歳末援護事業 地域環境美化事業		
P R し た い 活 動 実 績 の 概 要	活動名	南の星小 寺子屋	
	活動の期間	夏休み期間 (令和 7 年度は 7 月 30 日と 7 月 31 日の 2 日間を予定)	
	活動財源 該当するもの全 てに○	行政からの補助金 (18 千円)・団体会費・寄附 当該活動により得た収益・その他 ()	
	活動のきっかけ	こども達の居場所づくりの一環として、コロナ禍前は「通学合宿」を実施していたが、宿泊を伴う活動は難しいため「南の星小寺子屋」と銘打って夏休みの課題を早目に済ませるための学習会を行っている。	
	内容	南の星小学校 4～6 年の参加希望者を募り、夏休みの課題や 1 学期の復習、2 学期の予習等の自己学習を行う機会を設けた。学習指導は、江南中学校の生徒にボランティアとしてお願いした。同じ学区内の南の星小学校と江南中学校が連携した取り組みである。	
	成果	夏休みの課題を早目に完了できる。 中学生も小学生の学習指導をすることで、自分の知識を整理しより深めることができる。 以前参加した小学生が、中学生になり教える立場で参加し、つながりの輪ができています。 小中学生ともに外国籍のこどもが参加し、多文化共生のまちづくりに寄与している。	
	この活動について更に発展させたいこと	令和 6 年度までは、1 回だったが、今年度から 2 回開催する。将来的には 7 月だけでなく 8 月にも開催していきたい。	
	活動に協力した団体等	行政・企業・NPO・学校・市民・その他 () 協力の内容 五島協働センター：案内チラシの印刷及び活動場所の提供 浜松市立江南中学校：学習指導のボランティア	

☆南の星小 寺子屋☆

【日 時】7月30日(火)午前9時～11時

【場 所】五島協働センター 2階講座室

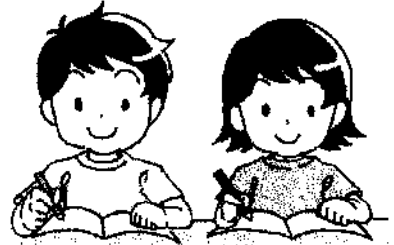
(おやつとお飲み物もご用意しております)

【対 象】小学4年生～6年生まで

【定 員】20名

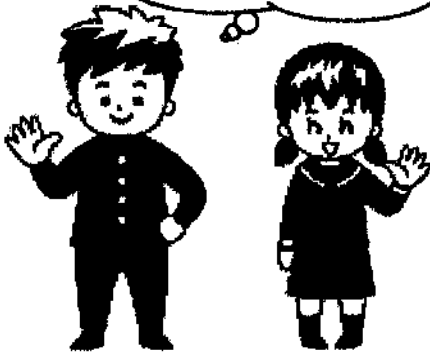
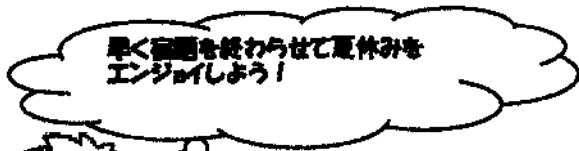
【先 生】中学生10名

【持ち物】自分がやりたい課題(問題集・ノート)・筆記用具



申込方法 南の星小学校に提出して下さい

締 切 日 7月16日(火)



五島地区社協福祉協議会
担当 池田澄子
電話 (053)425-4359

※ ----- き り と り -----

【☆南の星小 寺子屋☆】参加申込書

住 所	浜松市中央区 町	保護者氏名	
		電話番号(携帯)	
ふりがな		学年	
名 前		性別	男・女



新津地区 ～ボッチャを体験してみよう！～

地域力向上事業(協働センター等を核とした地域課題解決事業)

令和7年度 事業費 87千円



事業目的

新津地区は、過去に全世帯を対象とした町民運動会等が行われていたが、現在は行われなくなり、こども対象の行事が少くないという意見が挙がっていた。また、地区内には多くの福祉施設があるため、年齢や障害のあるなしにかかわらず行うことができているボッチャの体験会を行い、今まで体験したことのないこども達や福祉施設に通う方などにボッチャを広げる機会とし、コミュニティの醸成を図る。

課題

- ・こども対象の行事が少なくなり、地域コミュニティにかかわる機会が減っている。
- ・地区内の福祉施設と地域との交流機会が少ない。

概要

【1 事業名】 ボッチャを体験してみよう！

【2 イベント】

＜こども対象のボッチャ講座を開催＞ 1回

＜時期＞ 令和7年6月～12月

＜対象＞ 小学生(1～6年生)

＜会場＞ 可美公園総合センター(予定)

＜内容＞ 新津地区のボッチャ講師からルール等を学び、こども達がボッチャ競技を体験する。

＜福祉施設対象のボッチャ出前講座を開催＞ 4施設、各1回

＜時期＞ 令和7年6月～12月

＜対象＞ 施設利用者(こども～高齢者)

＜会場＞ 各福祉施設、可美公園総合センター(予定)

＜内容＞ 新津地区のボッチャ講師が施設へ出向き、福祉施設に通う方がボッチャを体験する。

＜ボッチャ大会の開催＞ 1回

＜時期＞ 令和8年2月～3月

＜対象＞ 小学生(1～6年生)

＜会場＞ 新津協働センター体育館(改修後予定)

＜内容＞ リニューアルした体育館でボッチャ大会を開催し、競技を通して地域間交流の場を提供する。

【3 効果】

- ・体験会を行うことで、誰もが競技を楽しみ、知る機会が提供できる。
- ・地域内で同じ競技を知り、広がることで会話の交流が生まれ、地域間の交流に繋がる。また、地域の大会に参加することで交流の輪が広がる。
- ・パラリンピック正式種目であるため、ボッチャを通して、個性の尊重や困難を乗り越えようと挑戦する大切さを学ぶ機会となる。

新津地区 ☆地元のお仕事 探検し隊☆

地域力向上事業(協働センター等を核とした地域課題解決事業)

令和7年度 事業費 145千円



事業目的

地元の企業等は、近隣に立地していても業務内容や実績について知る機会が少ないため、地域住民との理解や親しみが深められていないことが課題となっている。

新津地区には高い技術力を持つ企業や、様々な分野の産業があるため、各企業等を訪問、体験することで、魅力を知ることが繋がる。

大人から子どもまで多くの世代の方に参加していただき、地元の良さを再確認すると共に、地域内の繋がりを深める。

概要

【1 事業名】

地元のお仕事 探検し隊

【2 内容】

地域の企業や農園の見学や体験を実施(令和7年6月～令和8年3月)

<大人コース>

- ・オリーブの収穫体験ほか(全2回)
 - ・地元野菜、地産地消を学ぶ(全2回)
- <子どもコース> 小・中学生対象
- ・地元企業の見学と機械部品づくり体験
 - ・ ” 見学とフラワーアレンジ体験

<親子コース>

- ・地元企業による耐震・耐火体験など

※参加者のアンケート・感想カードを開催企業等へ渡す

【3 効果】

- ・地元の企業や産業などを学び、体験することで、魅力の発見や理解に繋がる。
- ・身近な企業として親しみやすい場所となり、地元の良さを再確認し、交流や繋がりを深めることができる。
- ・地域の産業を知るとは、子どもにとって将来の仕事のイメージが膨らみ、地元産業の魅力が実感できる。



地引網で地域間交流

地域力向上事業(協働センター等を核とした地域課題解決事業)

令和7年度 予算額 121千円
(前年度 予算額 なし)



事業目的

隣接する地域同士と一緒に館山寺サンビーチで地引網を協力・体験し、浜松に生きる生物の多様性について学びながら、親同士はもとより将来担い手となる、こども同士も交流を図り、一体感を醸成する。

概要

【1 事業名】

地引網で地域間交流

【2 イベント】

五島地区、白脇地区の小学生の親子世代（各地区25名程度）が館山寺サンビーチで共同により地引網を体験するもの。

【3 効果】

コロナ禍以降、ふれあいや体験学習の機会が減少する中で、地区を超えた親子が一つの目標に向けて力をあわせ網を引くことで、経験を通じた一体感の醸成につながる。

古くから遠州灘海岸で行われていた地引網漁を体験することにより、将来世代に浜松の豊かな自然の恵みを体験してもらい、浜松市民としてのアイデンティティや郷土への愛着の確立に寄与する。

人口減少により今後隣接する地域同士の交流や協力体制の構築がさらに必要になると思われるが、こうした体験により幼少期から共助意識が形成される。

【4 スケジュール】

募集：令和7年7月中旬に各小学校に配布予定

実施：令和7年9月（予定） 当日スケジュール： 10：00 現地集合 11：30 解散

参加者交流（自己紹介等）：20分 地引網について説明：10分 地引網体験：20分

捕獲した魚の説明等：30分 アンケート：10分 11：30解散

中地域分科会における意見・要望等（令和7年7月）

件名	三方原地区コミュニティ協議会からの要望に対する回答について（ラウンドアバウトの導入）	開催月	令和7年6月
内容	<p>（背景）</p> <ul style="list-style-type: none"> 三方原地区は、朝夕の通勤車輛や大型物流車輛の増加による慢性的な交通渋滞を避けようとして生活道路への車両流入等により、通学児童・生徒は大変危険な状況が続き、地区内住民の生活に大きな不安と支障をきたしている。 一方、静岡県 of 厳しい財政状況により、交通事故多発交差点におけるの信号機の設置も非常に困難な状況にある。 <p>（要望内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> 安全性、円滑性、環境性、経済性に優れ、災害時での機能性を併せ持ち、生活道路交差点での課題解決が見込まれる「小型ラウンドアバウト」を本地区内に導入するよう要望する。 <p>※要望区域については別紙のとおり。</p>		
所管課	道路企画課		
回答 (方針等)	<ul style="list-style-type: none"> 三方原地区は、企業の立地や住宅が増加している地域であり、通過車両が幹線道路の渋滞を避け、生活道路への進入を想定していると共に、地域の方からも交通量が増えてきているというご意見をいただいている。こうしたなか交通事故の発生状況は、特に交差点における出会い頭の事故が多発している状況である。 これまで、交差点箇所の交通事故対策を行ってきたが、当地区の現状から更なる対策が必要であると認識している。 ご要望いただいたラウンドアバウトは、通常の交差点に比べて車同士が交錯するポイントを減らすことができるため、出会い頭事故の削減に寄与するものと考えており、交差点への進入速度や通過速度が抑えられるため、重大事故の防止効果が期待できると共に、災害時には交差点機能の確保などにも効果があると認識している。 また、小型ラウンドアバウトは、従来よりも外径が小さく、いわゆる生活道路への導入が期待できる。 本市としても、交通事故削減に向けて、三方原地区内での小型ラウンドアバウトの設置を検討しているところであり、今後、関係する自治会及び地権者等と話を進め、実現に向けて取り組んでいく。 		

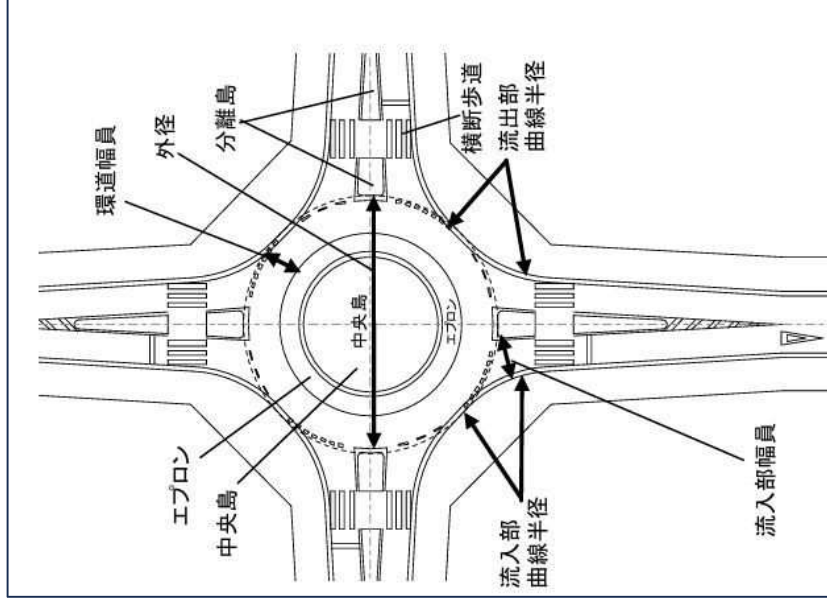
- 日本の交通量の少ない平面交差点においては、無信号交差点については一時停止無視などによる出頭事故の発生、また、信号交差点については、信号無視や信号交替り時における交差点進入による出頭事故の発生とともに、信号待ちによって無駄な遅れ時間が利用者を生じること、といった課題がある。従って、こうした安全上の問題を解決しつつ、利用者の利便性の観点から遅れ時間をできるだけ少なく抑えるような交差点の制御手法を実現することが必要
- また、災害時に伴う停電等でも安全に通行できる機性能性が求められる。

■ラウンドアバウトの定義

ラウンドアバウト (roundabout) とは、『環道交通流に優先権があり、かつ環道交通流は信号機や一時停止などにより中断されない、円形の平面交差点の一方通行制御方式』

■ラウンドアバウトの類型と特徴

- 標準ラウンドアバウト
 - 中央島が設けられ、流出入口、環道とも1車線のラウンドアバウトで、車両が中央島に物理的に乗り上げることができないものを指す。
 - 一般に外径は26~40m程度である。市街地、住宅地内、集落の入口の交差点や、郊外部でも比較的交通量が少なく、規制速度の高い道路相互の接続する交差点や、高速道路のランプと一般道との接続部などで適用。
 - 回転半径の大きな車両が環道幅員の範囲で走行できない場合に、中央島の外周部に乗り上げ可能な段差(エプロン)部を設けることで、通常の普通車などは環道を走行するが、一部の大型車両はエプロン部に乗り上げることで走行可能



中地域分科会における意見・要望等（令和7年7月）

件名	三方原地区コミュニティ協議会からの要望に対する回答について（三方原防風林の活用）	開催月	令和7年6月
内容	<p>（背景）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浜松市所有の三方原防風林は松枯れにより多くが伐採され、令和6年11月に用途廃止となった。 ・近年の異常気象により、農業用幹線排水路からの越水による浸水被害が拡大し、地域住民の生活や企業活動、農業活動等に大きな支障を及ぼしている。 <p>（要望内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初生小学校に隣接する三方原防風林跡地（8号防風林）については、PFI等の官民連携手法等も含め災害対策応急仮設住宅用地、防災公園及びスポーツ広場用地等として早急に整備すること。 ・浜松工業高校前交差点（三方原町）から北方面約4.5km（三幸町付近）の三方原防風林（1号防風林及び6号防風林）を地区浸水対策の貯留施設、災害対策応急仮設住宅用地、防災公園、スポーツ広場用地等としての利活用を視野に入れ、PFI等の官民連携手法等も含め、基本構想及び基本計画等を策定し、整備すること。 <p>※要望箇所については別紙のとおり。</p>		
所管課	企画課		
回答 （方針等）	<ul style="list-style-type: none"> ・三方原防風林は、南北全長約5kmに渡り松等の木が植えられていた土地であり、沿線には小学校や高校、住宅などが建ち並び、これまで散歩道としても親しまれてきた。しかしながら、松くい虫の被害等による松枯れにより維持が難しく、多くを伐倒してきた。また、国から市へ防風林が譲与された1970年代とは周辺状況も大きく変化し、防風林としての役割を終えていることから、関東農政局と協議を進めてきた結果、2024（令和6）年11月に防風林の用途廃止が認められた。 ・市では跡地の利活用について、2023（令和5）年度に、初生町の地元自治会や学校関係者を中心に、跡地の利活用に関するワークショップを2回開催し、様々な意見を伺ってきた。2024（令和6）年度からは庁内関係課で検討体制を設け、防風林に関する情報共有と利活用策の検討を始めている。防風林は場所により伐倒状況が異なっており、周辺環境も様々だが、三方原防風林跡地については、強固な地盤の三方原台地上であることや市域全体の位置関係に鑑みると、災害時の活用や公園、スポーツ広場としての利活用など、要望内容も踏まえ、検討を進めていく。 		

(中地域分科会) 地域課題に係る報告 (令和7年7月)

<p>件名</p>	<p>災害時の「自助」に関すること ・「自宅避難に向けての取組」及び「自宅周辺の 情報取得の方法」</p>	<p>開催月</p>	<p>令和7年6月</p>
<p>内容</p>	<p>○背景又は取り上げた理由 ・阪神・淡路大震災の教訓を活かし、自宅に置いて様々な地震対策が講じられてきた。自身や家族が助かるために、自助について話し合っていたいただきたく提案した。 ・一昨年の大雨の際、家の周りで起きていることがわからず、不安を感じた。地域内で情報どうやって共有しているのか、行政との連携はどう行えばよいのか気になり提案した。</p> <p>○内容 (他の委員に聞きたいこと)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 個人や家族での取組 2 地域での取組や防災訓練 (避難所計画への参加やHUG 訓練体験の有無) 3 隣保のつながりなど長期的に継続できる人間関係づくり 4 有線放送など、どのように身近な情報を取得しているか 5 防災準備はどの程度まですべきか、賞味期限のチェックはどうしているか 		
<p>所管課</p>	<p>中央区 区振興課</p>		
<p>質問 ・ 意見 ・ 回答</p>	<p>委員からの主な質問・意見等</p>	<p>回答</p>	
	<p>1 個人で家族での取組について、緊急時の連絡方法や集合場所をあらかじめ決めておくことが重要である。また、携帯電話が使えない状況も想定すべきである。</p>	<p><意見></p>	
	<p>2 地域での取組や防災訓練について、自主防災隊による月1回の活動や、HUG訓練の実施など、積極的に取り組んでいる。企業が集まる地域では、企業との連携も今後重要になると思う。</p>	<p><意見></p>	
	<p>3 自治会加入率の低下が根本的な問題であり、一戸建てとマンションの情報把握の違いも考慮しながら、各自治体や地域で状況を把握していくことが重要である。</p>	<p><意見></p>	

	<p>4 有線放送は浜松市内ではほとんど使用されていない。地震や大雨時の避難命令の伝達方法について、携帯電話の緊急情報が取得できない可能性も考慮し、把握しておく必要がある。</p>	<p><意見></p>
	<p>5 防災準備について、発電機やバッテリー、照明器具、7日分の食料と水などが必要だと思う。</p> <p>賞味期限については、ローリングストックを意識することが大事だと思う。</p>	<p><意見></p>

(東地域分科会) 地域課題に係る報告 (令和7年7月)

件名	浜松市こども計画について	開催月	令和7年6月
内容	<p>○背景又は取り上げた理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東地域分科会に設置されている地域福祉委員会は令和5年度から「こどもに視点をあてた福祉」を協議テーマとして設定している。 ・5月14日に開催した令和7年度第1回同委員会においてこども若者政策課を招き、3月に策定された「浜松市こども計画」について説明を受けた。 ・その後、東地域分科会において活動報告を行い、委員に情報を共有した。 <p>※「質問・回答」欄については地域福祉委員会での質疑応答から抜粋して記載</p>		
所管課	こども若者政策課		
質問・意見・回答	委員からの主な質問・意見等	回答	
	1 計画の着実な推進のためP D C Aの中のチェックが重要だと思うが、どうチェックしていくのか。	1 成果を取りまとめ、庁内体制(3層構造)のほか、関係機関として附属機関である「浜松市社会福祉審議会児童福祉専門分科会」にもご意見を頂き、事業に活かしていく。5か年計画だが、見直しを行い必要なものは随時、新規事業として追加していく。	
	2 「子どもの生活実態調査」(子育て支援課)における「朝食の欠食状況」について。何をもちょう食と考えるのかも家庭ごとに違う実態がある。親教育こそが重要だと感じている。	2 基本的な生活習慣を身につけることが大切だと思う。計画のなかでも「食育を通じた基本的な生活習慣の形成」として掲載しており、食育を推進していく。	
	3 民間学童保育に携わっているが、長期休暇は利用が多く例年大変な状況。今年は平日についても、これまでよりも利用希望が多い。待機児童対策はどのようにされているのか。	3 令和7年度は待機児童対策の一つとして、「夏季休業期間における臨時放課後児童会モデル事業」を上島小学校(中央区)と赤佐小学校(浜名区)で実施していく。	

(西地域分科会) 地域課題に係る報告 (令和7年7月)

<p>件名</p>	<p>外国人や障がい者との交流について</p>	<p>開催月</p>	<p>令和7年4月、5月</p>
<p>内容</p>	<p>○背景又は取り上げた理由 外国人や障がい者の方は外部の人と交流する機会が少なく、内輪で固まりがちに感じている。これらの人たちとの交流が、ごみ問題や自主防災などへの対応にもつながる手立ての一つになると考えるため。</p> <p>○他の委員に聞きたいこと 外国人や障がいをもつ方々とうまく交流できている地域は、どんな方法でやっているか教えてほしい。</p> <p>○内容 委員同士で情報交換や意見交換などを行った。</p> <p>(委員からの情報提供)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度 舞阪地区社会福祉協議会「会費」のお願いについて (日本語版、ポルトガル語版) ・篠原地区の自治会における(公財)浜松国際交流協会の通訳サービス利用について ・入野地区での翻訳・通訳サービス利用について ・(伊佐見地区社会福祉協議会) ふれあい広場 2024 について ・(伊佐見協働センター) やさしい日本語講座 ・(入野地区社協サロンこんぺいとー) こんぺいとー音楽会 ・第2回篠原地区ボッチャ大会 ・(雄踏地区民生委員・児童委員協議会) 令和7年度 グラウンドゴルフ開催案内 ・(雄踏地区民生委員・児童委員協議会) ムンド・デ・アレグリア (外国人学校) との交流について ・ゆうとう納涼祭やふれあい広場での交流について 		
<p>所管課</p>	<p>国際課</p>		
<p>質問 ・ 意見 ・ 回答</p>	<p>委員からの主な質問・意見等</p>	<p>回答</p>	
	<p>1 外国人が気軽に日本語学習できる場所を増やしてほしい。</p>	<p>1 HICE やU-ToC、日本語ボランティアなど多様な学習機会を提供している。</p>	

(南地域分科会) 地域課題に係る報告 (令和7年7月)

<p>件名</p>	<p>雨水対策について ・浜松市総合雨水対策計画</p>	<p>開催月</p>	<p>令和7年6月</p>
<p>内容</p>	<p>○背景又は取り上げた理由 豪雨被害により浸水が発生した場合に、田んぼは貯水能力があるため有効であるが、田んぼが宅地等に転用され減少している。転用地は防災エリアのところもある。学校には貯水槽の整備がされているところもあるが、南地域全体の雨水対策について知りたいため。</p> <p>○内容 (他の委員又は行政に聞きたいこと) ・浜松市の雨水対策の取り組みについて</p>		
<p>所管課</p>	<p>河川課</p>		
<p>質問 ・ 意見 ・ 回答</p>	<p>委員からの主な質問・意見等</p>	<p>回答</p>	
	<p>1 芳川エリアには静岡県が管理する芳川と浜松市が管理する東芳川が流れているが、河川の整備において、静岡県と浜松市はどのように連携し事業を進めているか。</p>	<p>1 雨水対策は、関係機関の連携が必要と考えている。浜松市総合雨水対策計画には、静岡県が取り組む対策を位置付けている。 また、県主体の計画の中にも、浜松市が取り組む対策を位置づけている。このように県と市、双方が連携して計画を策定している。河川の整備を行う段階においても十分に調整し事業を進めている。</p>	
	<p>2 内水氾濫の原因の一つである竹林や雑木の除去対策についてお聞きしたい。</p>	<p>2 内水氾濫は、放流先河川の水位が高くなり水が川に流れない状況や排水路などの能力不足で発生する。放流先の河川に水が流せなければ、対策は難しいため、まずは東芳川の整備に取り組んでいる。 また、静岡県において、管理する芳川の整備も進めていくと聞いている。 また、排水路や側溝の能力不足が確認されている箇所については、局所的に改良工事を進めている。</p>	

		<p>竹林や雑木があると水の流れを阻害し、水位上昇の原因になる。指摘された場所は、芳川沿いのことと思われるが、今回のご意見を浜松土木事務所へ情報共有する。</p>
	<p>3 河輪地区の学校は避難所になるが、校庭貯留を行ったときの災害時の取扱いについて教えていただきたい。</p>	<p>3 校庭貯留を行うにあたっては、教育施設課などの関連部局と連携し、グラウンドの高さ関係等を調べた上で設計している。校庭の周りに土を盛るなど、水を溜める構造とし、さらに吐き口に金属プレート製のオリフィスを取り付け、排水管を小さくすることで放流先河川に流れる水の量を抑制する。</p> <p>災害時は、このオリフィスを外し、水を流れ易くすることで、校庭貯留は運用しない方針としている。</p>